



集会のようす (= 8日、鹿児島市天文館公園)

15年たつてもいまだに放射能のこり、帰れない人がおそよ5万人

# 「福島事故を繰り返すな」

## 鹿児島市で反原発集会とパレード

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発事故から15年を迎えるのを前に、3月8日、鹿児島市の天文館公園で反原発集会が開かれました。県内外から約350人(主催者発表)が参加し、「福島事故を二度と繰り返さない」と川内原発の運転や使用済み核燃料の乾式貯蔵計画に反対の声をあげました。

### 晴れ渡る空の下、親子連れの姿も

集会が行われたこの日は空が晴れ渡っていましたが、風は冷たく、

参加者はコートやマフラーに身を包みながら話を聞きました。会場には若い世代や親子連れの姿も目立ち、福島事故を忘れないという思いが世代をこえて共有されている様子でした。

燃料の乾式貯蔵について「小手先の原発延命策だ」と批判。また、中部電力による耐震設計データ不正問題にも触れ、「二番の問題は原子力規制委員会にある。ごまかしを見抜けない構造が重大事故を生む」と訴えました。

主催した「ストップ川内原発! 3・11鹿児島実行委員会」の向原祥隆共同代表(69)は、九州電力が川内原発(薩摩川内市)で計画している使用済み核

この集会には、薩摩川内市からも日本共産党の井上勝博薩摩川内

こちらくらしの相談所  
(No. 643)  
携帯 080-3996-0237 (井上)  
なんでもご相談ください。



に住む方から「鳩の糞被害がひどく、防鳥ネットを設置してほしい」という相談が寄せられました。隣の県営住宅にはネットがあるのに、市営住宅にはない状況でした。市に改善を要

望した結果、市が対応し、防鳥ネットが設置されました。これからも生活相談を大切に、市民の暮らしの困りごとの解決に取り組みます。



写真は市営勝目一般住宅1号棟。3階から5階に防鳥ネットが張られた。

市議が参加したほか、川内原発建設反対連絡協議会の鳥原良子会長、さよなら原発いのちの

会の堀切時子代表らも参加し、原発に依存しない社会をめざす決意を共有しました。

発のない社会を」と声を上げながら行進しました。

### 「福島を忘れない」市街地をパレード

集会の後、参加者は「福島を忘れない」「絶対ダメ! 乾式貯蔵」などと書かれたプラカー

ドを掲げて市街地をパレードしました。沿道からは手を振る人や声援もあり、参加者は「原

福島原発事故から15年。事故の教訓を風化させず、原発に依存しない社会をめざす取り組みが続いています。

# 川内原発再稼働は「安全」より先に決まっていたのか (2面)

## 文藝春秋記事が示す再稼働選定の舞台裏

# 川内原発再稼働は「安全」より先に決まっていたのか

## 文藝春秋記事が示す再稼働選定の舞台裏

文藝春秋3月号の記事は、川内原発が国内で最初に再稼働した原発に選ばれた経緯を伝えています。それによると、福島第一原発事故からわずか3か月後、当時の民主党政権の資源エネルギー庁の幹部が、大成建設の元会長に川内原発再稼働への協力を依頼したとされています。事故の原因究明や安全対策の検証が十分に行われていない時期に、再稼働候補が水面下で検討されていたとすれば、原発の安全性をめぐる重大な問題を提起しています。

## 福島事故からわずか3か月で再稼働の検討

記事によると、福島第一原発事故が起きた2011年3月からわずか3か月後の6月、当時の資源エネルギー庁幹部が大成建設の元会長に対し、九州電力川内原発の再稼働に協力してほしいと依頼したとされています。事故原因の解明も、「型が違う」「技術データがある」

## 「型が違う」「技術データがある」ことが理由

川内原発が候補になった理由として記事は二つの点を挙げています。一つは、福島第一原発が沸騰水型（BWR）であるのに対し、川内原発は加圧水型（PWR）であり、タイプが異なる原子炉だったこと。

もう一つは、大成建設が施工した原発であり、技術データを持っていたことでした。しかし、福島事故の教訓は「想定外の事故が起きる」ということでした。原子炉の型式が違うことや施工会社が違ふことや、再稼働の判断理由になることが妥当なのか、改めて問われます。

## トップシークレットで進められた再稼働準備

当時は全国で脱原発の世論が広がっており、「再稼働」という言葉さえ公に言いにくい状況だったといえます。そのため、再稼働

に向けた動きはトップシークレットで進められ、大成建設、三菱重工、九州電力がチームを組んだと証言されています。

もし原発の再稼働がこのような形で水面下で準備されていたとすれば、原発政策の意思決定の透明性や民主的な議論のあり方が問われることとなります。

## 原発の安全性は本当に検証されたのか

川内原発は2015年、福島事故後、国内で初めて再稼働しました。しかし、その背景に今回の記事が示すような経緯があったとすれば、再稼働の判断が本当に安全性の十分な検証のうえで行われたのか、改めて検証する必要があります。

福島事故から15年が過ぎたいまも、原発事故が地域社会に与える影響の大きさは変わっていません。川内原発の安全性について、住民の立場からあらためて考えることが求められています。

## エプロンおばさんの簡単クッキング (697)



### ハムと黄ニラのスパゲティ (簡単)

材料 (2人分)  
スパゲティ 200g、ハム 5枚、黄ニラ 1束、ニンニク 1片、白ワイン大さじ3、オリーブ油、塩・こしょう。

### 作り方

- ① ハムは細切り、黄ニラは5cm、ニンニクは薄切り。
- ② フライパンでハム・黄ニラ・ニンニクを炒め、白ワインを入れる。
- ③ ゆでたスパゲティとゆで汁 100ml を入れて絡め、塩こしょうで味を整える。

※「シネマ太郎の映画評と案内」は筆者の都合によりしばしば休みます。

## 中俣先生のつれづれなるままに (828)

←中俣先生のブログはこちら

2月の7日、8日はドキドキ感と恐怖感が混じって、なかなか落ち着かなかった。ドキドキ感ももちろん党の躍進を期待するもの。恐怖は高市突風に吹き飛ばされたいかという思いであった。7日はテレビニュースを見たかったが、いつもの通り午後8時に床に就いた。夜中にトイレ立ったとき、気になってテレビをつけると、自民党圧勝と出ていた。その後は心配あまり眠れず、いつものように4時に起きた。15分には朝刊が届く。テレビをつけると、共産党3と出ていて、残りが1。その残り一つに共産党が滑り込んで4時間待って、ネットに詳しい北支部代行の〇さんに電話を入れた。〇さんも確認中とのこととで、そのまま外に出て居間に上がる。〇さんからの電話が入ったみたい。折り返し電話を入れると、塩川さんが入ったというので、ほっとした。中道は三分の一の落ち込みよう。かつて社公合意で社明党が衰退したように、立憲も公明党と組むことによって凋落していくのか、その予想がズバリだった。それにしても、護憲の党が振るわなかったことに危惧を覚えた。固定電話がどこも携帯に切り替えられ、対話ができなかった。私のがいなきにも落ち込んだ。そんななか、「戦いは終わっていません」という出水市議選の選対ニュースに励まされた。そうだが、がっかりでは済まされぬ。地方から革新の火の手を上げないという思いで、私に残された時間は少ないが、それでも元気を出している。(詩愛好家)